

# 漢方薬シンポジウム2013

「体を温める大和当帰（トウキ）」を知る  
～奈良は良質な大和当帰の一大産地～

古くから奈良では良質な大和当帰が採れ人々の健康を守ってきました  
血行を良くすることで体を温める当帰について紹介するとともに  
国民生活にどう活かせるのか、良質な当帰の安定供給について議論します

平成25年11月9日（土）午後1時30分から  
奈良県文化会館 国際ホール

## 【プログラム】

- 13:30 開会挨拶 奈良県 副知事 前田努
- 13:40 基調講演 「当帰って何だ」  
日本東洋医学会名誉会員・名誉教授 鹿野美弘 氏
- 14:10 基調講演 「当帰を使った漢方薬」  
慶応義塾大学 教授  
奈良県立医科大学 客員教授 渡辺賢治 氏
- 14:40 休憩・準備
- 14:50 パネルディスカッション  
コーディネーター 奈良県立医科大学 教育開発センター 教授 藤本真一  
パネラー 基調講演者 渡辺賢治 氏  
基調講演者 鹿野美弘 氏  
社会福祉法人 小西英玄 氏  
(社会福祉法人奈良県手をつなぐ育成会 理事長)  
農業法人 和田宗隆 氏  
((株)パンドラファームグループ代表取締役 社長)  
製薬企業 嶋田康男 氏 (三星製薬株式会社 開発部長)
- 15:50 質疑応答
- 16:10 公立大学法人奈良県立医科大学 学長 吉岡章
- 16:20 閉会



わたなべ けんじ  
渡辺 賢治氏  
Watanabe Kenji

◆基調講演

【講 題】 「当帰を使った漢方薬」

【プロフィール】

慶應義塾大学医学部卒業、同大内科学教室、  
米国スタンフォード大学遺伝学教室、  
北里研究所東洋医学総合研究所などを経て、  
現在、慶應義塾大学 教授 医学博士  
奈良県立医科大学客員教授  
奈良県漢方推進顧問

【講演要旨】

当帰はセリ科の植物であるが、漢方治療の中では非常に重要な働きをする。婦人科薬の多くに入るが、女性にありがちな血液の不足を補う妙薬である。代表的な漢方薬には四物湯がある。これは血液の運ぶ栄養素が足りないために起こる種々の症状を改善する薬である。具体的には、冷え症、貧血、皮膚や唇の乾燥、生理不順や生理痛、更年期障害、貧血症状、冷え症、しもやけ、しみ、主婦湿疹などに使う。四物湯を基本とする漢方薬は数多くあり、十全大補湯、温経湯、芍帰膠艾湯、七物降下湯など数多くあるが、日常臨床で頻用する漢方薬に当帰芍薬散がある。これも四物湯を基本にしているが、地黄が入らない。五苓散が加わることで、むくみを取る作用も持つ。当帰芍薬散は婦人の妙薬として多用され、月経のトラブルや月経前症候群、頭痛、むくみ、冷えなど応用範囲は広い。このように当帰は多くの漢方薬に欠かせない生薬なのである。

<漢方処方 of 効能効果>

しもつとう

四物湯・・・皮膚が乾燥し、色つやの悪い体質で胃腸障害のない人の次の諸症：  
産後あるいは流産後の疲労回復、月経不順、冷え性、しもやけ、しみ、  
血の道症

じゅうぜんたいほとう

十全大補湯・・・病後の体力低下、疲労倦怠、食欲不振、ねあせ、手足の冷え、貧血

おんけいとう

温経湯・・・手足がほてり、唇がかわくものの次の諸症：月経不順、月経困難、こし  
け、更年期障害、不眠、神経症、湿疹、足腰の冷え、しもやけ

きゅうききょうがいとう

芍帰膠艾湯・・・痔出血

しちもつこうかどう

七物降下湯・・・身体虚弱の傾向のあるものの次の諸症：高血圧に伴う随伴症状（のぼせ、  
肩こり、耳鳴り、頭重）

とうきしかくやくさん

当帰芍薬散・・・筋肉が一体に軟弱で疲労しやすく、腰脚の冷えやすいものの次の諸症：  
貧血、倦怠感、更年期障害（頭重、頭痛、めまい、肩こり等）、月経  
不順、月経困難、不妊症、動悸、慢性腎炎、妊娠中の諸病、（浮腫、  
習慣性流産、痔、腹痛）、脚気、半身不随、心臓弁膜症